



PHP-Figの公式サイト(<http://www.php-fig.org/psr/>)

きれいなプログラム、書いていますか？ — コーディング規約

多くの場合、プログラムは一度書いて終わりというものではありません。リリース後に発見されたバグを修正したり、機能の追加や改定をおこなったりと、常に変更される可能性があります。そして、プログラムを変更する場合に必ずおこなわれるのがプログラムを読む(理解する)ことです。

後からプログラムを変更するのは自分かもしれませんし、そうでないかもしれませんし、いずれにせよ、プログラムを読むということはそれなりに大変なことです。たとえ自分が書いたプログラムであっても、時間が経つと「なにをしていたのか」わからなくなってしまうことは意外に多いものです(他人の書いたプログラムであればなおさらです)。後々のことを考えれば、きれいな(=読みやすい)プログラムを書くことはとても重要なことです。

もっとも、きれいなプログラムと言っても、「きれい」の基準があいまいでわかりにくいと感じる方も多いでしょう。そんな方は、まず「コーディング規約」に従ってみてください。コーディング規約とは、変数の名前付け規則やコメントの付け方、インデントやスペースの使い方など、読みやすいプログラムを記述するための基本的なルールのことです。もちろん、これがきれいなプログラムであることのすべてというわけではありませんが、少なくともコーディング規約に沿うことで「最低限汚くない」プログラムを記述できます。

PHPの標準的なコーディング規約としては、PHP-Figというグループで作成されている**PSR (PHP Standards Recommendations)**が有名です。これまで、規約というものをあまり気にしなかったという方は、これを機会に一度目を通してみてはいかがでしょうか。

以下に、PSRで触れられている主なポイントを挙げておきます。あくまで規約であって、構文規則ではない点に注意してください。利用しているフレームワーク、参加しているプロジェクトで別な規約を採用している場合には、そちらを利用すべきです。

- PHPタグは<?php、<?=のいずれかを利用すること
- 文字コードはUTF-8(BOMなし)、改行コードはLFを利用すること
- ファイル末尾の終了タグ?>は省略すること
- インデントは空白4文字(タブ文字は不可)
- 1行あたりの桁数は80桁(最大でも120桁)
- クラス/関数等を定義したコードと、なんらかの副作用を伴うコードとはファイルを分離すること
- クラス名はPascal(StudlyCaps)形式、メソッド名はcamelCase形式であること
- プロパティ名はPascal/camelCase/アンダースコア形式いずれでもかまわないが、一貫していること。
- クラス定数はすべて大文字とし、区切り文字にアンダースコアを利用すること
- すべてのプロパティ/メソッドにアクセス修飾子を明記すること
- abstract、final修飾子はアクセス修飾子よりも前に記述すること